

第16回山のトイレを考えるフォーラム開催にあたって

山のトイレを考える会・代表 岩村和彦

平成27年も2ヶ月が過ぎ、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今シーズンも冬山では遭難事故が相次いでいます。同じ冬山を愛する者の一員として私も他山の石にしなければと、心する次第です。

また最近特に見聞きする言葉として「バックカントリー」があります。整地されていない山の斜面を楽しむ傾向はこれからますます増えることでしょう。遭難や雪崩による事故もまたあちこちで起こっており、新たなルール作りが急がれます。

さて、昨年から今年にかけて北海道の山のトイレに関することでは、いくつか動きがありました。一つは新設なった羊蹄山の避難小屋に土壌処理方式のトイレが設置されたことです。当会のメンバーも昨年7月に訪れましたが、山小屋の管理人さんの情熱には本当に頭が下がります。同時に今後も新方式のトイレを継続使用していくために気になった点がありました。

いろいろな行政組織が絡んだことで、指揮命令系統、責任の所在がどうなっているのか、トイレの正常な稼働を維持するための点検マニュアルなどがあるのかどうか当会には不明です。せつかく作った新方式のトイレを継続使用するためにもこれらを明瞭にし、日常的に点検整備することが喫緊の課題だと認識しています。

また幌尻山荘のトイレ問題も、これまでは日高山脈ファンクラブが中心となって、ボランティアによりし尿の担ぎ下ろしを行ってきましたが、今後は平取町が維持管理を行います。百名山登山で賑わう山荘のトイレをどのような方式で維持管理していくのか、重大な関心を持って推移を見守りたいものです。

今回のフォーラムのテーマを「美瑛富士トイレ問題～そして山は動き出した」にしました。長らくトイレ設置のための運動を行ってきましたが、当会では様々な理由から携帯トイレ使用地域への方向転換を図りました。その最大の理由はトイレ設置がいつになるかわからず、一方では毎年繰り返される使用済み紙の回収作業です。糞尿による汚染も進んでいます。しかし携帯トイレの使用にはトイレブースの設置が必要であり、何よりその維持管理をどうするかが問われます。

トイレブースの設置を環境省に要望するに当たり、その維持管理を当会を含めた全道の山岳団体で担うという計画が進行中です。山を愛する者たちが総力を合わせて維持管理に取り組むことは、画期的なことです。よい意味で全国へ波及する前例になればと思います。これには環境省のみならず、美瑛町始め多くの行政機関、諸団体との協力が不可欠です。今年の試行期間を得て、来年度から本格的な実施を考えています。

フォーラムではこのテーマを中心に皆様から多くのご意見、ご要望をいただき、北海道の山のトイレ問題解決への道と一緒に探りたいものです。